

## 令和6（2024）年度 資源評価調査報告書（拡大種）

種名	ソデイカ	対象水域	太平洋
担当機関名	水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター、鹿児島県水産技術開発センター、沖縄県水産海洋技術センター	協力機関名	

## 1. 調査の概要

鹿児島県、沖縄県が過去に遡ってまとめた主要港の年別漁獲量と沖縄県の主要漁協に所属する旗流し漁業を基に、現在の資源の水準および動向を判断した。また、本種の生物特性を把握するため、ソデイカの精密測定を実施した。

## 2. 漁業の概要

本資源は、鹿児島県および沖縄県において主に旗流し漁業で漁獲される。旗流し漁業は、500 mほどの立縄の先に疑似餌をつけて釣獲する漁業である。参画機関である鹿児島県および沖縄県の県別の漁獲量を図1、表1に示した。1998～2024年にかけて、沖縄県のソデイカ漁獲量は1,500～2,700トンで、鹿児島県の漁獲量は190～450トンで推移している（奄美大島海区漁業調整委員会調べ）。

## 3. 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：本種は、主に世界中の熱帯・亜熱帯海域に分布する外洋性の大型イカで、暖流の影響を受ける一部の温帯・冷帯海域まで分布している。詳しい回遊経路は不明であるが、海流による受動的な回遊を行っていると考えられている。
- (2) 年齢・成長：沖縄海域における市場調査と調査船による漁獲調査の外殻長組成から、7月時点で30～40 cmの個体群が、翌年3月頃には70～80 cmに成長すると考えられ、寿命は約1年と推定されている（川崎 1992）。鹿児島県海域では情報なし。
- (3) 成熟・産卵：沖縄海域での産卵期は2～7月の間で、8月以降も続いている可能性がある。成熟は、雌が外殻長65 cm前後、雄が70 cm前後からとされている（川崎 1992、1993）。
- (4) 被捕食関係：沖縄海域では、ハダカイワシ類、タチウオ類などの魚類やツメイカ類などのイカ類を主に捕食しており、加えてエビ類を捕食している（川崎 1993）。小笠原海域ではハダカイワシ類やホタルイカモドキなどを捕食している。（安藤ほか 2004）。

## 4. 資源状態

沖縄県の主要漁協の旗流し漁業標本船から得られた2012年漁期以降のCPUE（尾/針数）は、ピーク時（2013年漁期）から緩やかな減少傾向を示したが、直近5年間（2019～2023年漁期）の動向は横ばいと判断された（漁期は11月～翌年5月）（図2、表2）。漁獲量は、近年、減少傾向がみられるが、平均程度の漁獲量となっている。これらを総合すると、資源水準は中位、動向は横ばいであると判断された。

## 5. その他

鹿児島県および沖縄県の海区漁業調整委員会指示により、ソデイカ漁業における漁期の管理（短縮）や漁具の制限等が行われている。

## 6. 引用文献

- 川崎一男（1992）ソデイカの漁場形成と生態．沖縄県水産試験場事業報告書，8-20.  
川崎一男（1993）ソデイカの漁場形成と生態．沖縄県水産試験場事業報告書，5-20.  
安藤和人・錦織一臣・土屋光太郎・木村ジョンソン・米沢純爾・前田洋志・川辺勝俊・垣内喜美男（2004）小笠原海域におけるソデイカの漁業生物学的特性、東京都水産試験場研究報告，213，1-22.
-

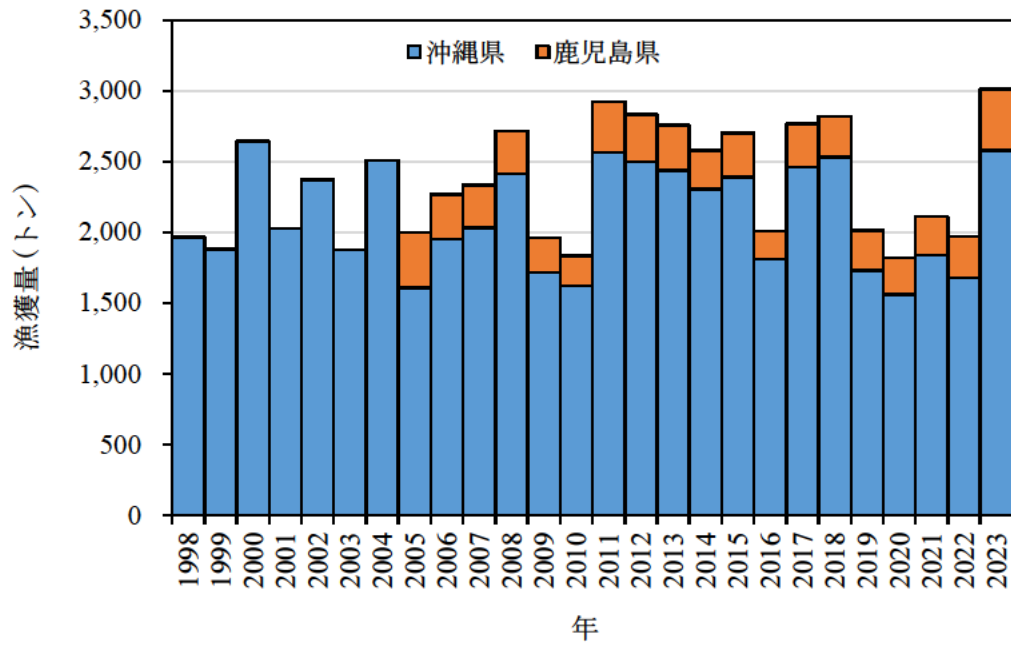


図1. 鹿兒島県、沖縄県におけるソデイカの漁獲量

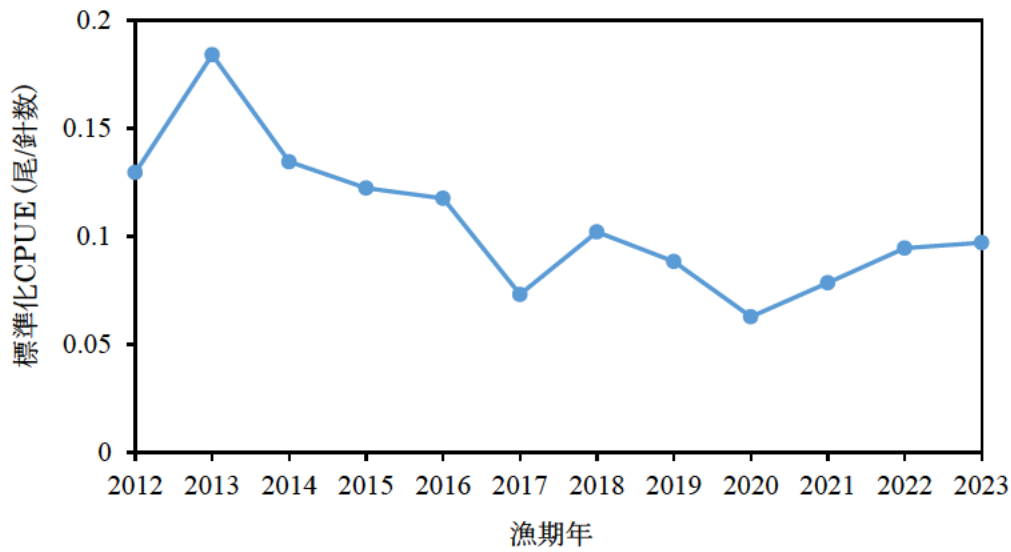


図2. 沖縄県の主要漁協・標本船によるソデイカのCPUEの経年変化

表 1. ソデイカの漁獲量（トン）

漁期年	沖縄県 (24 漁協)	鹿児島県 (奄美海区内)
1999	1,966.5	
2000	1,883.8	
2001	2,645.3	
2002	2,027.9	
2003	2,371.8	
2004	1,876.6	
2005	2,506.4	
2006	1,607.3	393.0
2007	1,952.2	315.3
2008	2,032.3	302.3
2009	2,413.2	301.0
2010	1,716.8	244.4
2011	1,622.3	210.0
2012	2,563.3	361.1
2013	2,501.1	331.0
2014	2,437.0	322.4
2015	2,307.3	272.1
2016	2,391.1	311.2
2017	1,811.2	196.2
2018	2,463.8	303.9
2019	2,530.0	289.3
2020	1,729.4	286.7
2021	1,561.5	259.6
2022	1,838.2	272.1
2023	1,681.2	289.3
2024	2,579.4	433.7

表 2. 沖縄県の主要漁協・標本船によるソデイカの CPUE の経年変化（漁期は 11 月～翌年 5 月）

漁期年	平均値	95%信頼限界 下限値	95%信頼限界 上限値
2012	0.129463	0.070829	0.236635
2013	0.183961	0.146292	0.231331
2014	0.134477	0.10933	0.165408
2015	0.122287	0.099513	0.150274
2016	0.117563	0.09737	0.141944
2017	0.073086	0.060737	0.087946
2018	0.102022	0.084822	0.12271
2019	0.088317	0.072659	0.107349
2020	0.062787	0.051174	0.077035
2021	0.078475	0.066424	0.092712
2022	0.09454	0.080075	0.111618
2023	0.097045	0.08215	0.114641